

2022. **12**
No. **219**

調査レポート

県内勤労者の消費・貯蓄動向 ～第68回くらしのアンケートから～

要	約	1
1	家計の状況	3
2	今冬の買物計画	4
3	おけいこ事、塾・サークル	6
4	貯蓄	7
5	ローン等の利用	8
6	冬季ボーナス	10
7	お歳暮	11
8	冬休み、年末・年始の過ごし方	13
	(特別調査)物価上昇・キャッシュレス決済関連	14

要 約

1. 家計の状況

- 1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が11.5%、「悪くなった」が28.3%、「変わらない」が60.2%。「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△16.8。県内景気は新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐなかで緩やかな改善が続いている。一方で、ロシアのウクライナ侵攻を背景とした資源高や円安の進行により輸入物価が上昇しており、食料品やエネルギー関連などの生活必需品の価格が軒並み上昇するなか、家計の負担感は増しており、県内勤労者の生活実感も悪化していると考えられる。
- 家計上の悩みは、「物価上昇」が最も多く、以下、「収入の伸び悩み」、「税金等負担増」の順。

2. 今冬の買物計画

- この冬購入したい商品は、「婦人服」、「紳士服」、「暖房機器」、「子供服」・「スマートフォン」(同順位)の順。
- 昨冬比で購入予定比率が上昇した品目は6品目にとどまり、上昇幅も小幅。一方で13品目が低下しており、消費マインドは引き続き弱含み。
- 購入予定先は「インターネット通販」、「一般小売店」、「家電量販店」、「スーパー・ショッピングセンター」、「ホームセンター」の順。

3. おけいこ事、塾・サークル

- 参加したいおけいこ事は、「料理」が1位で、以下、「ビジネス・キャリアアップ講座」・「外国語会話」(同順位)、「楽器」の順。
- 年代別では、すべての年代で1位が「料理」となっている。2位は20代が「ビジ

ネス・キャリアアップ講座」・「ダンス・フィットネス等」(同順位)、30代が「楽器」、40代以上が「外国語会話」。

4. 貯 蓄

- 平均貯蓄額は495万円で、現在利用している金融商品は、「銀行預金」、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」、「個人年金」の順。今後増やしたい金融商品は、「銀行預金」、「投資信託」、「ゆうちょ銀行貯金」、「株式」の順。
- 貯蓄する際重視する点は「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「利回りが良い」、「預け入れ引き出しが自由」の順。

5. ローン等の利用

- ローン等の利用者は29.5%で、平均借入額は1,143万円。
- 利用目的は「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金以外の生活資金」の順。
- 借入先は「銀行」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」、「ネット銀行」(新設)の順。
- 借入先を選択する理由は、ローン利用者、未利用者ともに「金利の低さ」が1位で、2位は、ローン利用者が「審査が通りやすい」、未利用者が「手数料負担が少ない」。

6. 冬季ボーナス

- 冬季ボーナスは、すべての年代で「減りそう」が「増えそう」を上回ったが、両比率の差(「増えそう」－「減りそう」)は△15.7と、昨冬の△26.8から11.1ポイント縮小。雇用・所得環境の改善を背景に、ボーナス支給に対する厳しい見方が緩和。
- 平均手取り予想額は37万1千円。使いみちは「貯蓄」が最も多く、以下、「買物」、「ローン返済」、「旅行・レジャー」の順。

7. お歳暮

- お歳暮を贈る予定者は、全体の 29.2%。贈る件数は「2 件以下」が最も多く、平均件数は 2.6 件。
- 1 件あたりの単価は「3,000 円程度」が最多で、平均単価は 3,725 円。
- 贈りたい商品は「お菓子・スイーツ」が最多で、以下、「ビール（含むビール券）」、「ハム・ソーセージ」、「直送生鮮品」・「お茶・コーヒー」（同順位）の順。

8. 冬休み、年末・年始の過ごし方

- 「特に予定なし」が最も多く、以下、「日帰り旅行」、「国内宿泊旅行」、「帰郷」、「スポーツ・健康づくり」、「海外旅行」の順。
- 「国内宿泊旅行」の宿泊日数をみると、「1 泊」が最多で、平均宿泊日数は 1.6 日。

(特別調査) 物価上昇・キャッシュレス決済関連

物価上昇への対策とキャッシュレス決済の利用状況の調査を実施。

- 物価上昇に対し取り組んでいる対策（複数回答）については、「食費の節約」が最多で、以下、「ポイントの活用」、「光熱費の節約」の順。一方、「対策をしていない」は 25.0%。
- キャッシュレス決済の利用状況は、「利用している」が 76.2%、「利用したことはない」が 18.6%、「利用したことがあるが、現在は利用していない」が 5.2%。
- キャッシュレス決済の利用頻度は、「ほぼすべて」が 52.5%、「現金決済と同程度」が 34.0%、「特定の場面のみ」が 13.5%。

● 調査実施要領

調査対象：インターネット調査会社にモニター登録されている県内の勤労者 533 名

調査方法：調査会社モニターあての Web アンケート調査

調査時期：2022 年 10 月下旬から 11 月上旬

〈 回 答 者 内 訳 〉

内訳	項 目	回答者数	構成比
年 代 別	20 代	100人	18.8%
	30 代	112	21.0
	40 代	158	29.6
	50 代 以 上	163	30.6
家 族	既 婚	303	56.8
	未 婚	230	43.2
性 別	男 性	342	64.2
	女 性	191	35.8
合 計		533	100.0

(参考) 前回 (2021 年冬季) 内訳

内訳	項 目	回答者数	構成比
年 代 別	20 代	109人	20.3%
	30 代	107	19.9
	40 代	160	29.9
	50 代 以 上	160	29.9
家 族	既 婚	277	51.7
	未 婚	259	48.3
性 別	男 性	324	60.4
	女 性	212	39.6
合 計		536	100.0

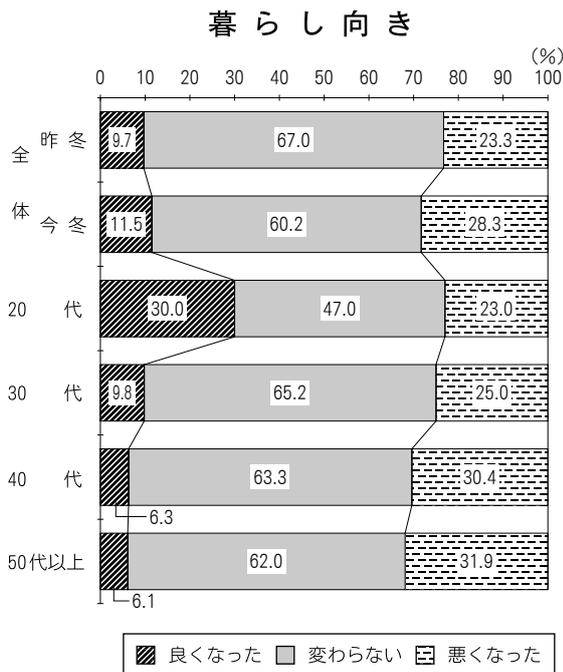
1 家計の状況

暮らし向きは悪化が続く

1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が11.5%、「悪くなった」が28.3%、「変わらない」が60.2%となった。この結果、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△16.8となり、昨冬比で3.2ポイント悪化した。

県内景気は新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐなかで緩やかな改善が続いており、ボーナス支給見通しも改善している。一方で、ロシアのウクライナ侵攻を背景とした資源高や円安の進行により輸入物価が上昇しており、食料品やエネルギー関連などの生活必需品の価格が軒並み上昇している。そのため、家計の負担感は増しており、県内勤労者の生活実感も悪化していると考えられる。

年代別にみると、「悪くなった」の回答比率が最も高かったのは50代以上（31.9%）で、以下、40代（30.4%）、30代（25.0%）、20代（23.0%）と続いた。若年層と比べて生活費負担の重い中高年層で、生活実感の厳しさをより強く感じている状況が窺われる。

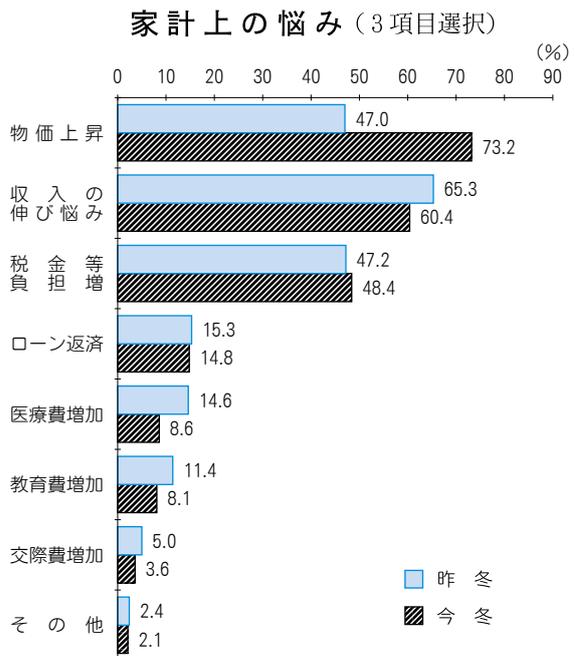


家計上の悩みは「物価上昇」が1位に

家計上の悩み（3項目選択）は、「物価上昇」が最も多く、以下、「収入の伸び悩み」、「税金等負担増」と続いた。

上位項目を昨冬と比較すると、昨冬3位の「物価上昇」が47.0%から73.2%（昨冬比+26.2ポイント）と大きく上昇し、1位となった。資源高や円安の進行を背景に食料品や電気代、ガス代など生活に関わる多くの品目で「値上げ」が実施されたことが、調査結果に反映されたと考えられる。一方、昨冬1位の「収入の伸び悩み」（同△4.9ポイント）が2位に、2位の「税金等負担増」（同+1.2ポイント）が3位に、それぞれ順位を落とした。

その他の項目をみると、「医療費増加」（同△6.0ポイント）、「教育費増加」（同△3.3ポイント）、「交際費増加」（同△1.4ポイント）、「ローン返済」（同△0.5ポイント）のいずれも比率が低下した。



2 今冬の買物計画

消費マインドは引き続き弱含み

この冬購入したい商品（20品目について複数回答）は、「婦人服」が最多で、以下、「紳士服」、「暖房機器」、「子供服」・「スマートフォン」（同順位）と続いた。1位、2位は変動がなかったが、昨冬4位の「暖房機器」が3位に順位を上げた一方、同3位の「子供服」が4位に順位を落とした。また、昨冬5位の「家具・インテリア」が7位に順位を下げた一方、同6位の「スマートフォン」が5位へと順位を上げた。

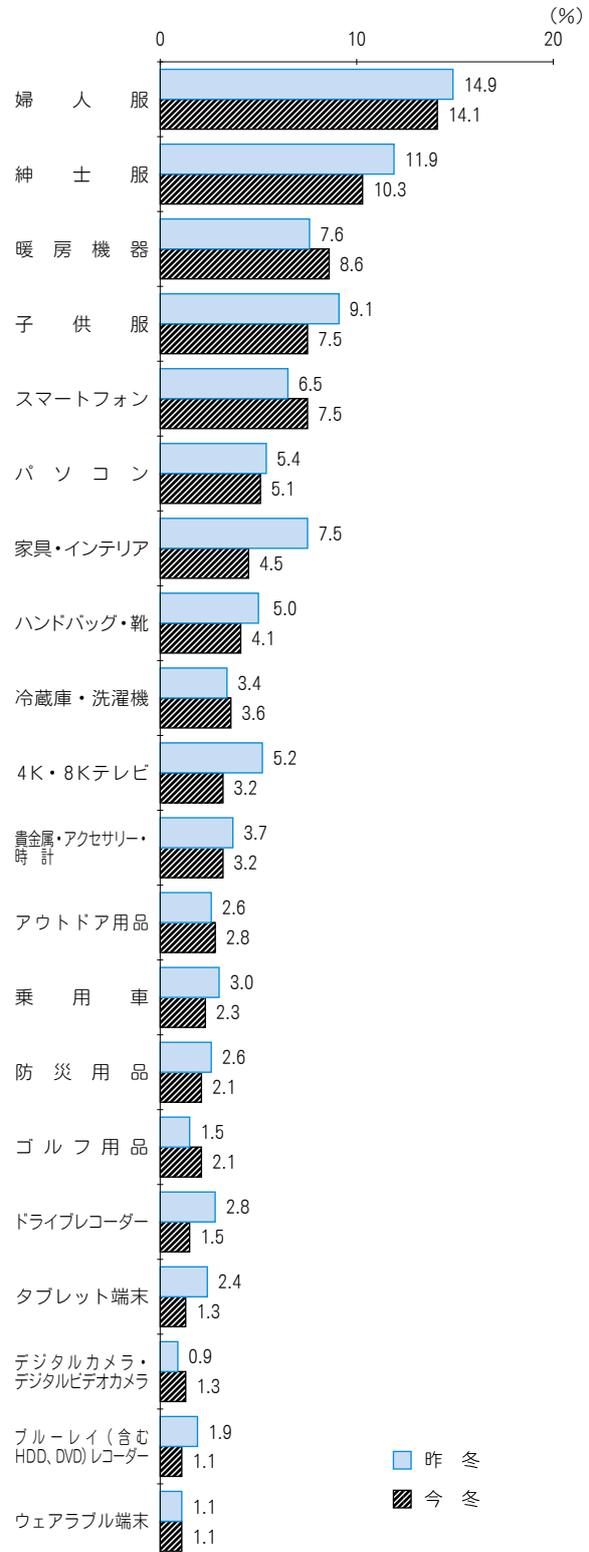
昨冬と比べて購入予定比率が上昇した品目をみると、「暖房機器」、「スマートフォン」、「冷蔵庫・洗濯機」、「アウトドア用品」、「ゴルフ用品」、「デジタルカメラ・デジタルビデオカメラ」の6品目（昨冬4品目）で、上昇幅も1ポイント以下と小幅にとどまっている。経済活動は徐々に正常化しつつあるものの、消費マインドには引き続き弱さがみられる。

「4K・8Kテレビ」の低下が続く

購入予定比率が低下した品目は、「婦人服」、「紳士服」、「子供服」、「パソコン」、「家具・インテリア」、「ハンドバッグ・靴」、「4K・8Kテレビ」、「貴金属・アクセサリー・時計」、「乗用車」、「防災用品」などの13品目（昨冬14品目）となった。

このうち下落幅が最も大きかったのは「家具・インテリア」で、次いで、「4K・8Kテレビ」となっている。特に、「4K・8Kテレビ」は昨冬が2.5ポイント、今冬が2.0ポイントのマイナスと、購入予定比率の低下が続いている。

主要商品の購入予定状況（複数回答）



購入予定先はインターネットが1位

この冬購入したい商品の購入予定先（複数回答）は、「インターネット通販」が最も多く、以下、「一般小売店」、「家電量販店」、「スーパー・ショッピングセンター」、「ホームセンター」と続いた。

昨冬と比較すると「インターネット通販」、「家電量販店」、「ホームセンター」、「百貨店」、「通信販売」などの比率が上昇したが、上昇幅は小幅にとどまった。一方、「一般小売店」、「スーパー・ショッピングセンター」は低下した。

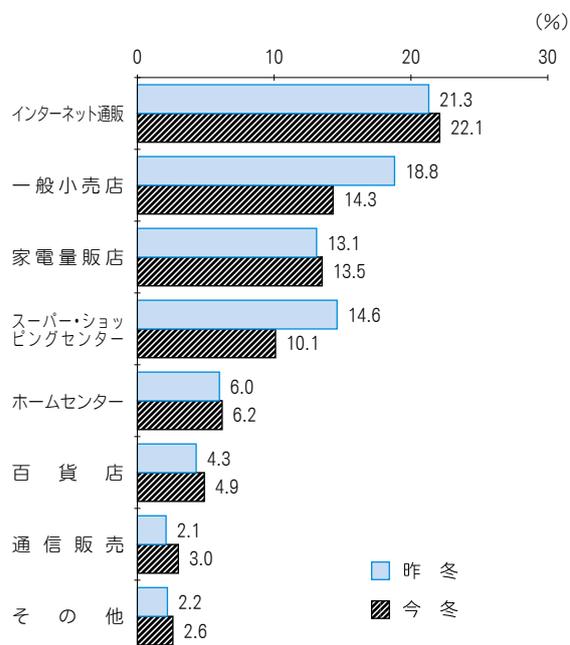
なお、「インターネット通販」は2020年冬の

調査以降、3期連続で1位となっている。新型コロナウイルス感染症の影響により外出を控える動きもあるなかで、インターネットショッピングが買い物の主要チャネルとして定着している様子が窺われる。一方、「一般小売店」、「スーパー・ショッピングセンター」は、いずれも昨冬比で4.5ポイントのマイナスと大きく落ち込んでいる。経済活動の正常化が進みつつあるものの、対面での買い物頻度を減らしていると考えられる。

今冬購入予定の商品ベスト5

	全体	20代	30代	40代	50代以上
1位	婦人服	婦人服	子供服	紳士服	紳士服
2位	紳士服	暖房機器	婦人服	婦人服	婦人服
3位	暖房機器	紳士服	紳士服	子供服、スマートフォン (同順位)	暖房機器、スマートフォン (同順位)
4位	子供服、スマートフォン (同順位)	家具・インテリア	暖房機器		
5位		貴金属・アクセサリー・時計	スマートフォン	暖房機器	パソコン

購入予定の店舗（複数回答）



3 おけいこ事、塾・サークル

参加したいおけいこ事は「料理」が1位

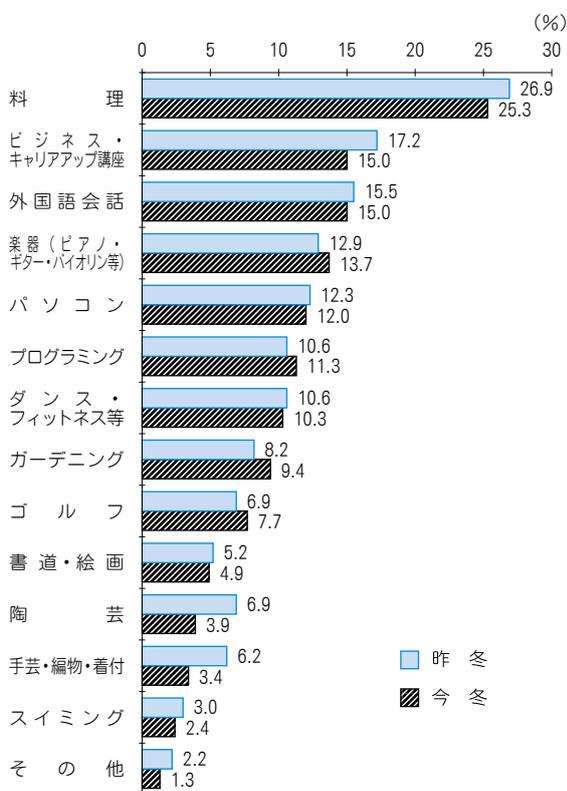
参加したいおけいこ事や塾・サークル（複数回答）は、「料理」が1位となり、以下、「ビジネス・キャリアアップ講座」・「外国語会話」（同順位）、「楽器」、「パソコン」、「プログラミング」の順となった。

昨冬と比較すると、「外国語会話」が3位から順位を1つ上げて「ビジネス・キャリアアップ講座」と同率の2位となったほか、「書道・絵画」が順位を2つ上げた一方、「陶芸」、「手芸・編物・着付」は各々順位を1つ下げた。

なお、回答比率をみると、「楽器」、「プログラミング」、「ガーデニング」、「ゴルフ」の比率が上昇した一方、「料理」、「ビジネス・キャリアアップ講座」、「外国語会話」、「パソコン」などの比率は低下した。

年代別にみると、すべての年代で「料理」が1位となっている。2位は20代が「ビジネス・キャリアアップ講座」・「ダンス・フィットネス等」（同順位）、30代が「楽器」、40代以上が「外国語会話」となっている。

やってみたいおけいこ事、塾・サークル
（複数回答）



やってみたいおけいこ事、塾・サークル
（複数回答）

	全体 (%)	20代 (%)	30代 (%)	40代 (%)	50代以上 (%)
料理	25.3	42.0	25.0	19.0	21.5
ビジネス・キャリアアップ講座	15.0	16.0	15.2	15.2	14.1
外国語会話	15.0	11.0	15.2	16.5	16.0
楽器 (ピアノ・ギター・バイオリン等)	13.7	15.0	16.1	10.1	14.7
パソコン	12.0	12.0	8.9	14.6	11.7
プログラミング	11.3	12.0	15.2	13.3	6.1
ダンス・フィットネス等	10.3	16.0	12.5	9.5	6.1
ガーデニング	9.4	7.0	3.6	9.5	14.7
ゴルフ	7.7	9.0	7.1	10.1	4.9
書道・絵画	4.9	6.0	3.6	6.3	3.7
陶芸	3.9	5.0	4.5	1.9	4.9
手芸・編物・着付	3.4	6.0	3.6	3.2	1.8
スイミング	2.4	3.0	5.4	0.6	1.8
その他	1.3	2.0	2.7	0.0	1.2

4 貯蓄

平均貯蓄額は495万円

現在の貯蓄額の平均額は495万円（昨冬500万円）で昨冬と比べて5万円減少した。年代別に貯蓄額の平均額をみると、20代で254万円、30代で422万円、40代で629万円、50代以上で563万円となっている。

貯蓄額の分布をみると、「100万円以下」が最多で、以下、「101万円～200万円」、「2,001万円以上」、「401万円～500万円」、「201万円～300万円」の順となった。

利用している金融商品（複数回答）は、「銀行預金」が85.0%と最も多く、以下、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」、「個人年金」、「投資信託」、「株式」の順となった。

年代別に利用率をみると、「銀行預金」は30代以上で8割超となっている。また、「生命保険」、「株式」は年代が高いほど利用率が上昇している。

今後増やしたい金融商品も「銀行預金」が最多

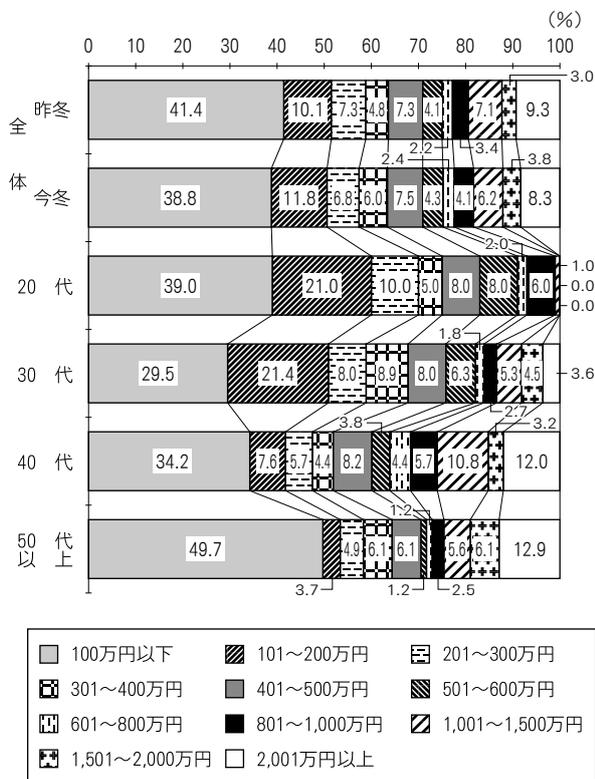
今後増やしたい金融商品（複数回答）は「銀行預金」が最多で、以下、「投資信託」、「ゆうちょ銀行貯金」、「株式」、「個人年金」の順となった。

年代別にみると、1位は各年代とも「銀行預金」で、2位は20代と40代で「投資信託」、30代で「株式」、50代以上で「ゆうちょ銀行貯金」となっている。

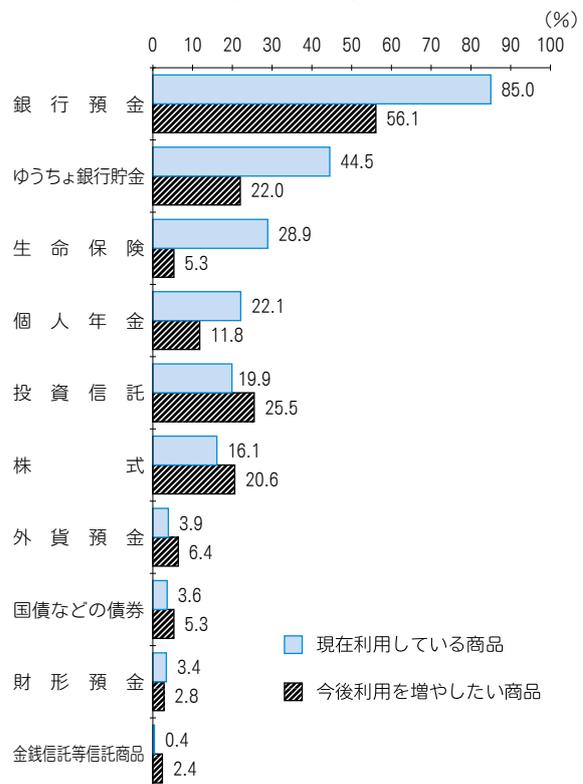
貯蓄をする際、重視する点（3項目選択）は、「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「利回りが良い」、「預け入れ引き出しが自由」、「値上がり期待できる」、「利用金融機関が自宅から近い」の順となっている。

年代別にみると、20代が「利回りが良い」、30代は「預け入れ引き出しが自由」、40代以上は「元金の保証があり安心」が1位となった。2位は20代と50代以上が「預け入れ引き出しが自由」、30代と40代は「利回りが良い」となっている。

現在の貯蓄額



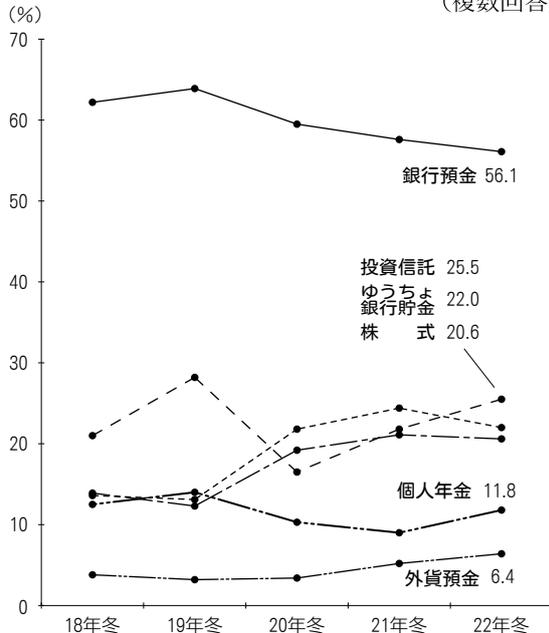
金融商品の利用（複数回答）



5 ローン等の利用

今後利用を増やしたい金融商品の推移

(複数回答)



平均借入額は1,143万円

ローン等の利用状況を見ると、利用者は29.5%で、平均借入額は1,143万円となった。

利用目的(複数回答)は、「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金以外の生活資金」と続いた。昨冬と比較すると、「子や孫などへの教育資金」、「教育資金以外の生活資金」、「旅行・レジャー」の比率が上昇した一方、「土地・住宅の購入」、「自動車・家電品の購入」、「自分の教育資金・自己啓発の資金」は低下した。

借入先(複数回答)は、「銀行」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」、「ネット銀行」(新設)の順となった。昨冬と比較すると、「銀行以外の金融機関」、「勤務先」の比率が上昇した一方、「銀行」、「政府系金融機関」、「月賦・クレジット会社」は低下した。なお、今回新設した「ネット銀行」の比率は、4位(17.2%)となった。

これらを年代別にみると、ローン利用者の割合は、年齢が上がるほど高くなっており、平均借入額は、20代508万円、30代1,095万円、40代1,506万円、50代以上1,038万円となった。マイホームや教育資金などの需要が高まる40代で最も平均借入額が高くなっている。

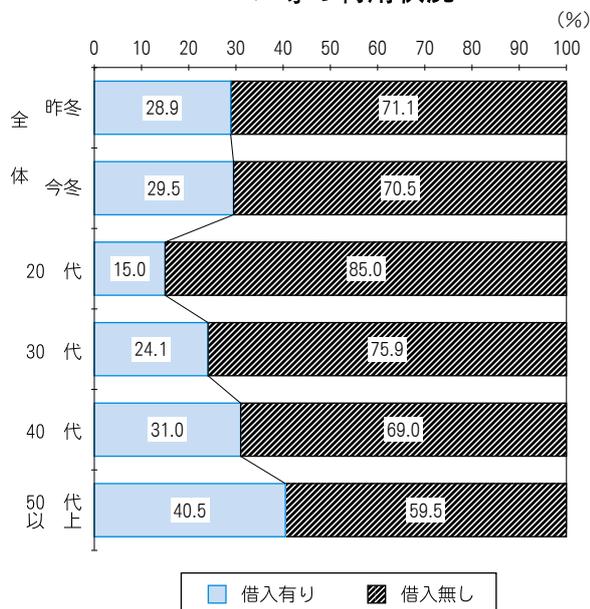
また、利用目的は、20代で「自分の教育資金・自己啓発の資金」、30代以上で「土地・住宅の購入」がそれぞれ最多となっている。なお、借入先は、すべての年代で「銀行」が1位となっている。

貯蓄する際重視する点(3項目まで選択)

(%)

	全体	20代	30代	40代	50代以上	昨冬順位
元金の保証があり安心	53.7	40.0	44.6	59.5	62.6	1
利回りが良い	45.8	49.0	48.2	42.4	45.4	2
預け入れ引き出しが自由	43.3	43.0	52.7	33.5	46.6	3
値上がり期待できる	26.5	34.0	23.2	24.7	25.8	4
利用金融機関が自宅から近い	9.8	14.0	8.9	13.9	3.7	5
利用金融機関のサービスが良い	7.3	9.0	10.7	7.0	4.3	6
利用金融機関に友人、知人がいる	3.2	6.0	3.6	3.2	1.2	7
勤務先が利用金融機関と取引している	3.0	3.0	2.7	4.4	1.8	9
利用金融機関が勤務先から近い	2.6	2.0	4.5	3.2	1.2	8
利用金融機関が集金にきてくれる	0.9	3.0	0.0	0.0	1.2	10
その他	2.3	3.0	1.8	3.8	0.6	-

ローン等の利用状況



「金利の低さ」を重視する傾向

借入先を選択する理由（複数回答）は、ローン利用者、未利用者ともに「金利の低さ」が最も多くなった。

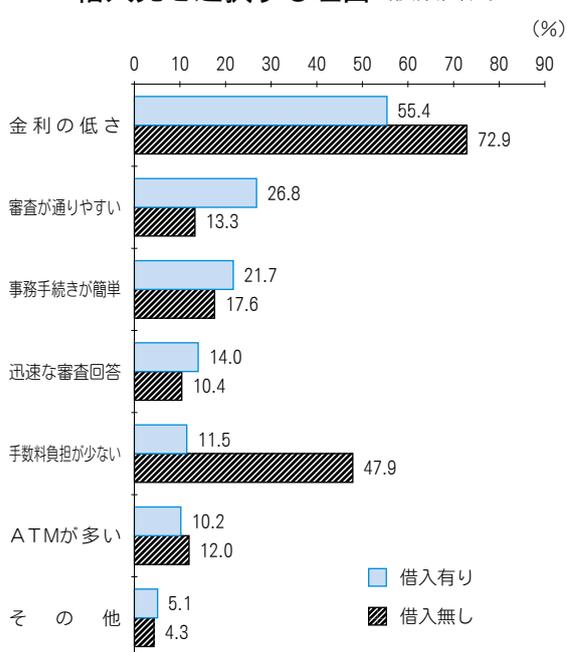
ローン利用者の2位以下の順位は、「審査が通りやすい」、「事務手続きが簡単」、「迅速な審査回答」と続いた。これらを年代別にみると、各年代とも1位が「金利の低さ」、2位が「審査が通りやすい」となっている。3位は、20代で「迅速な審査回答」・「手数料負担が少ない」（同順位）、30代以上で「事務手続きが簡単」となっている。

一方、未利用者の2位以下の順位は、「手数料負担が少ない」、「事務手続きが簡単」、「審査が通りやすい」と続いた。

ローン等の借入先・利用目的（複数回答）

		全体	20代	30代	40代	50代以上
利用目的	土地・住宅の購入	52.9	13.3	59.3	57.1	56.1
	自動車・家電品の購入	22.9	26.7	29.6	26.5	16.7
	教育資金以外 の生活資金	11.5	20.0	14.8	4.1	13.6
	子や孫などへの 教育資金	8.3	0.0	3.7	8.2	12.1
	旅行・レジャー資金	8.3	0.0	3.7	12.2	9.1
	自分の教育資金（奨学金など）・ 自己啓発の資金（資格取得など）	6.4	33.3	7.4	2.0	3.0
	その他	7.0	20.0	0.0	6.1	7.6
	借入先	銀行	52.9	46.7	48.1	55.1
月賦・クレジット会社	23.6	20.0	25.9	24.5	22.7	
銀行以外の金融機関	21.0	13.3	14.8	18.4	27.3	
ネット銀行（新設）	17.2	13.3	14.8	14.3	21.2	
住宅金融支援機構等 政府系金融機関	5.7	0.0	3.7	8.2	6.1	
勤務先	2.5	0.0	0.0	0.0	6.1	
その他	4.5	20.0	3.7	0.0	4.5	

借入先を選択する理由（複数回答）



6 冬季ボーナス

各年代とも減額予想が上回る

昨冬と比べた今冬のボーナス（手取り額）の予想は、「増えそう」が10.7%、「減りそう」が26.4%となり、引き続き「減りそう」が「増えそう」を上回った。

ただし、両比率の差（「増えそう」－「減りそう」）は△15.7と、昨冬の△26.8から11.1ポイント縮小している。感染防止対策と経済活動の両立が図られるなか、雇用・所得環境の改善を背景に勤労者のボーナスに対する厳しい見方が緩和されてきている。

なお、年代別にみると、各年代とも「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回った。昨冬との比較では、40代で「増えそう」の比率が同率となった以外、すべての年代で「増えそう」の比率が上昇している。

平均手取り予想額は37万1千円

手取り予想額は、「1～20万円」が最も多く、以下、「21～30万円」・「41～50万円」（同順位）、「31～40万円」の順となった。

また、平均手取り額は37万1千円（昨冬35万7千円）で昨冬と比べて1万4千円の増加となった。年代別にみると、20代が30万円、30代が31万1千円、40代が42万4千円、50代以上が41万2千円となっている。

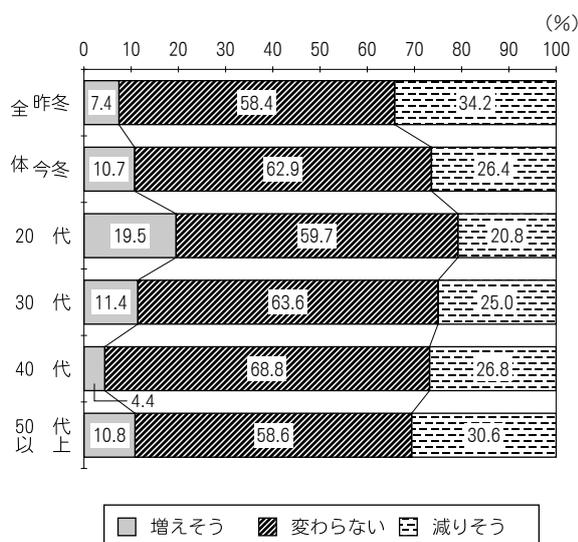
「貯蓄」の優先姿勢は変わらず

ボーナスの使いみちは、「貯蓄」の比率が最も高く、以下「買物」、「ローン返済」、「旅行・レジャー」、「教育費」の順となった。

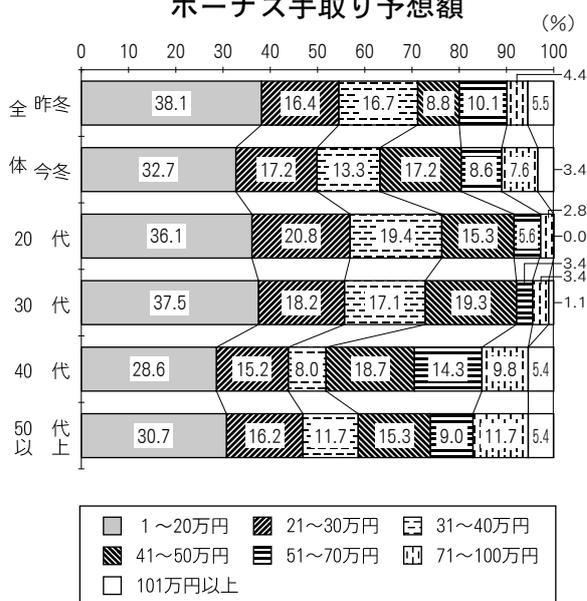
昨冬と比較すると、「ローン返済」、「教育費」の比率が上昇した一方、「買物」、「貯蓄」、「旅行・レジャー」は低下した。なお、「貯蓄」への配分割合はやや低下したものの、依然として6割弱を占めており、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないことや老後の生活資金の確保など、将来への不安感の根強さが窺われる。

なお、年代別にみると、すべての年代で1位は「貯蓄」、2位は「買物」となった。

冬季ボーナス増減予想

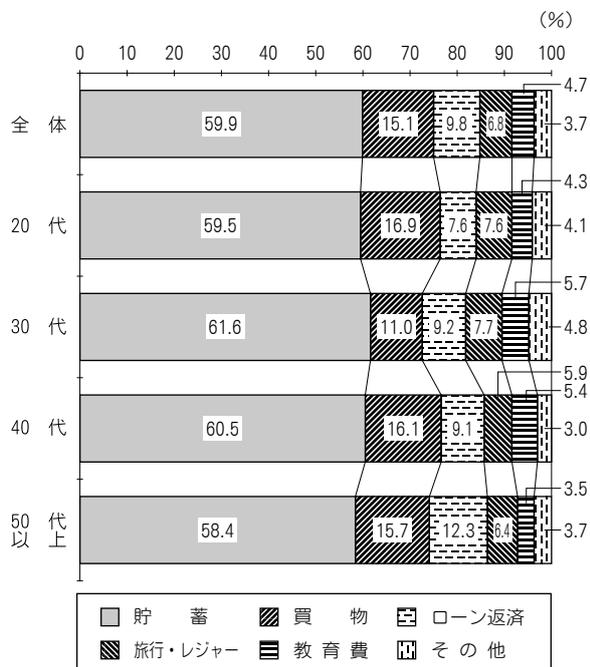


ボーナス手取り予想額

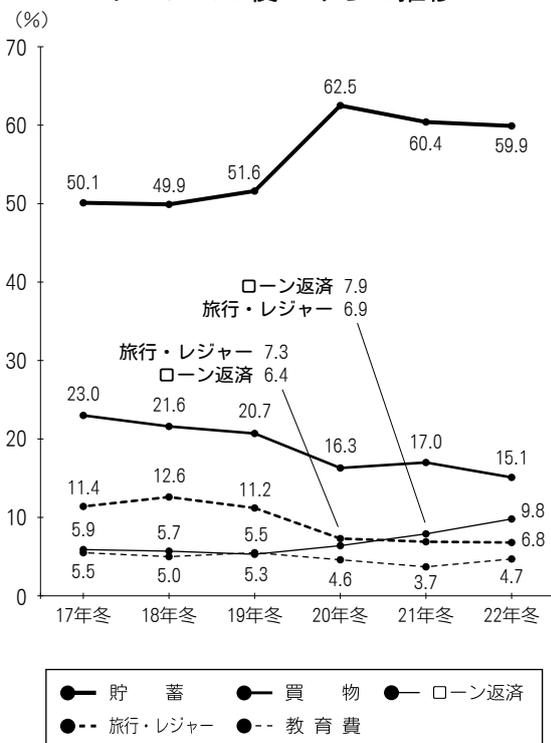


7 お歳暮

ボーナスの使いみち



ボーナスの使いみちの推移



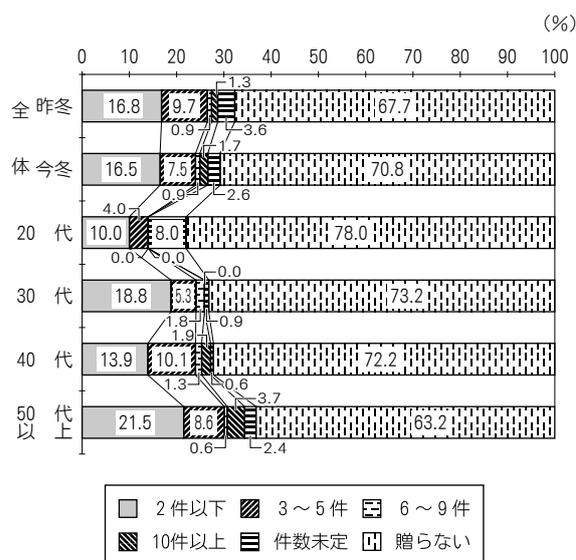
贈る件数は平均 2.6 件

今冬、お歳暮を贈る予定のある人は 29.2%で、昨冬（32.3%）と比べて 3.1 ポイント低下した。

贈る件数は「2 件以下」が最も多く、以下、「3～5 件」、「件数未定」、「10 件以上」、「6～9 件」の順で、平均贈答件数は 2.6 件となった。

年代別にみると、贈る予定のある人は、20 代が 22.0%、30 代が 26.8%、40 代が 27.8%、50 代以上が 36.8% となっており、平均贈答件数は、20 代が 2.3 件、30 代が 2.9 件、40 代が 2.7 件、50 代以上が 2.7 件となった。

お歳暮を贈る件数



平均単価は 3,725 円、平均予算は 9,685 円

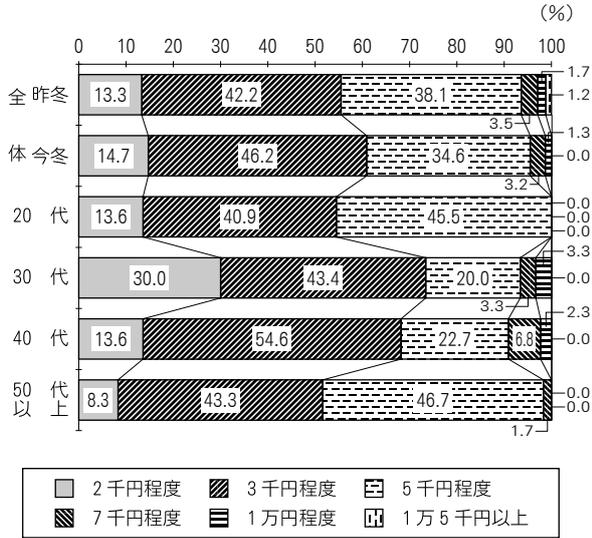
1 件あたりの単価は、「3,000 円程度」が 46.2%と最も多く、次いで「5,000 円程度」が 34.6%となっており、この両者で約 8 割を占めた。

また、平均単価は 3,725 円、平均予算総額は 9,685 円となった。

なお、年代別の平均単価は、20 代が 3,820 円、30 代が 4,217 円、40 代が 3,475 円、50 代以上が 3,574 円となっており、平均予算総額は、各々 8,786 円、12,229 円、9,383 円、9,650 円となった。

お歳暮の相場

(1件当たり平均単価)



「お菓子・スイーツ」がトップ

お歳暮に贈りたい商品(5品目まで選択)は、「お菓子・スイーツ」が最多で、以下、「ビール(含むビール券、以下同じ)」、「ハム・ソーセージ」、「直送生鮮品」・「お茶・コーヒー」(同順位)の順となった。なお、「ビール」以外が最多となるのは、2008年冬の調査以来となる。

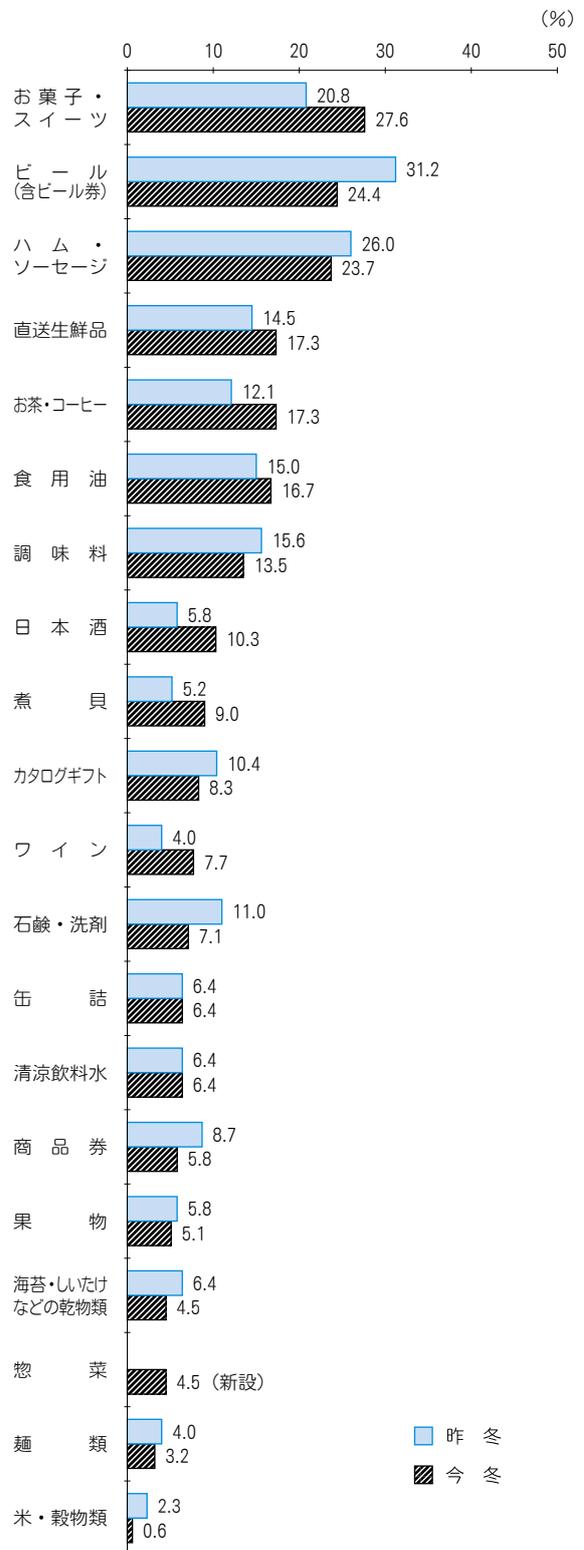
年代別にみると、1位は20代が「お菓子・スイーツ」、30代が「食用油」、40代が「ハム・ソーセージ」、50代以上が「直送生鮮品」であった。また、2位は20代が「調味料」・「ビール」(同順位)、30代が「お菓子・スイーツ」・「ビール」(同順位)、40代が「お菓子・スイーツ」・「お茶・コーヒー」(同順位)、50代以上では「お菓子・スイーツ」となっている。

お歳暮に贈りたい商品ベスト5

順位	20代	30代	40代	50代以上
1	お菓子・スイーツ	食用油	ハム・ソーセージ	直送生鮮品
2	調味料、ビール(含むビール券)(同順位)	お菓子・スイーツ、ビール(含むビール券)(同順位)	お菓子・スイーツ、お茶・コーヒー(同順位)	お菓子・スイーツ
3				ビール(含むビール券)
4	日本酒	ハム・ソーセージ	ビール(含むビール券)	ハム・ソーセージ
5	食用油、ハム・ソーセージ(同順位)	お茶・コーヒー、缶詰(同順位)	調味料	お茶・コーヒー

お歳暮に贈りたいもの

(5品目まで選択)



8 冬休み、年末・年始の過ごし方

「日帰り旅行」、「国内宿泊旅行」が増加

冬休み、年末・年始の過ごし方（複数回答）は、「特に予定なし」が55.0%と最多となった。以下、「日帰り旅行」、「国内宿泊旅行」、「帰郷」、「スポーツ・健康づくり」、「海外旅行」の順となった。

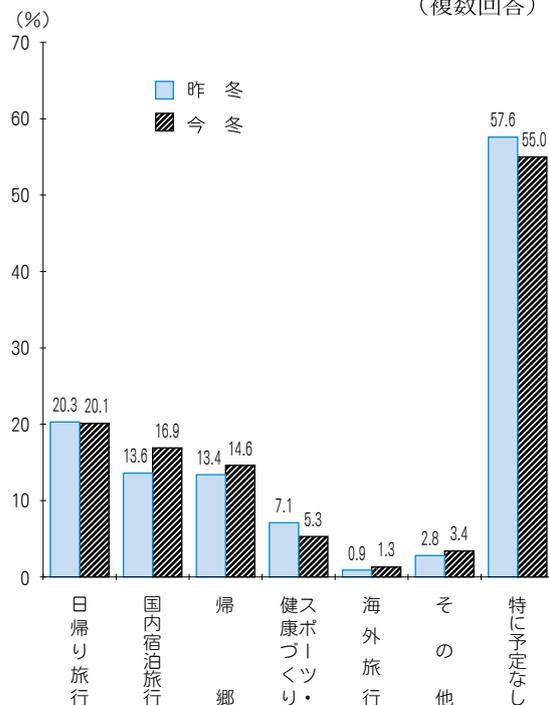
昨冬と比較すると、「特に予定なし」が2.6ポイント低下した一方、「国内宿泊旅行」は3.3ポイント上昇した。新型コロナウイルス感染症の影響が緩和され、国内宿泊旅行の需要が高まっている様子が窺われる。なお、「海外旅行」については、昨冬から0.4ポイントと僅かながら上昇し、行き先としてはハワイのほか、シンガポール、タイなどの東南アジアが挙げられた。

年代別にみると、「特に予定なし」を除いた場合、1位はすべての年代で「日帰り旅行」、2位は30代が「帰郷」となった以外は、すべての年代で「国内宿泊旅行」となっている。昨冬と比較すると、20代、40代の「国内宿泊旅行」の上昇が目立っている。

なお、「国内宿泊旅行」の宿泊日数をみると、「1泊」が53.9%、「2泊」が34.8%、「3泊」・「4泊」が3.4%で、平均宿泊日数は1.6日となった。

冬休み、年末・年始の過ごし方

（複数回答）



冬休み、年末・年始の過ごし方（複数回答）

(%)

	全体	20代	30代	40代	50代以上
日帰り旅行	20.1	24.0	23.2	20.9	14.7
国内宿泊旅行	16.9	22.0	14.3	19.0	13.5
帰郷	14.6	20.0	17.0	14.6	9.8
スポーツ・健康づくり	5.3	5.0	4.5	3.8	7.4
海外旅行	1.3	3.0	0.0	0.6	1.8
その他	3.4	4.0	3.6	4.4	1.8
特に予定なし	55.0	49.0	50.0	51.3	65.6

(特別調査)

物価上昇・キャッシュレス決済関連

本調査では、物価上昇への対策とキャッシュレス決済の利用状況について伺った。

物価上昇への対策は「食費の節約」が1位

物価上昇への対策として取り組んでいること（複数回答）については、「食費の節約」が47.1%で最多となった。以下、「ポイントの活用」、「光熱費の節約」、「外食の回数を減らす」、「燃料費の節約」の順となり、今夏の調査と同順位となった。なお、ポイントの活用は今夏から5.3ポイント上昇した。食料品、エネルギー関連の支出の節約を継続しつつ、気軽に行えるポイントの活用が広がっている様子が窺われた。なお、「対策をしていない」は、25.0%と全体の4分の1を占めた。

年代別にみると、すべての年代で1位は「食費の節約」となっている。2位は20代から40代で「ポイントの活用」、50代以上は「光熱費の節約」となった。

7割強がキャッシュレス決済を利用

キャッシュレス決済の利用状況を見ると、「利用している」が76.2%、「利用したことはない」が18.6%、「利用したことがあるが、現在は利用していない」が5.2%となった。「利用したことがある人」は8割を超えており、キャッシュレス決済が一般的な決済手段として浸透している様子が窺われる。

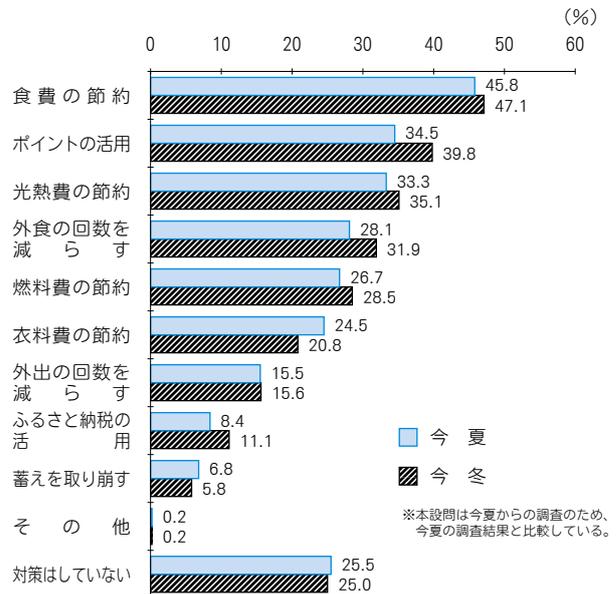
年代別にみると、「利用している」は20代が最も高くなっている一方、「利用したことはない」は50代以上で最も高くなっている。

キャッシュレス決済を利用している方に利用頻度を聞いたところ、「ほぼすべて」が52.5%、「現金決済と同程度」が34.0%、「特定の場面のみ」が13.5%となった。

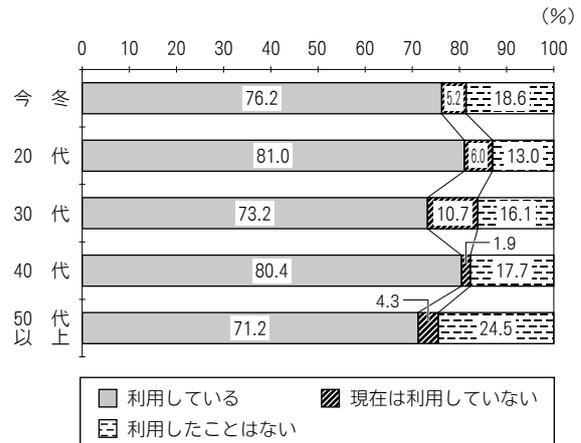
物価上昇への対策として取り組んでいることベスト5（年代別）

順位	20代	30代	40代	50代以上
1	食費の節約	食費の節約	食費の節約	食費の節約
2	ポイントの活用	ポイントの活用	ポイントの活用	光熱費の節約
3	外食の回数を減らす	光熱費の節約	光熱費の節約	対策はしていない
4	光熱費の節約	外食の回数を減らす	外食の回数を減らす	燃料費の節約
5	衣料費の節約	燃料費の節約	燃料費の節約	ポイントの活用

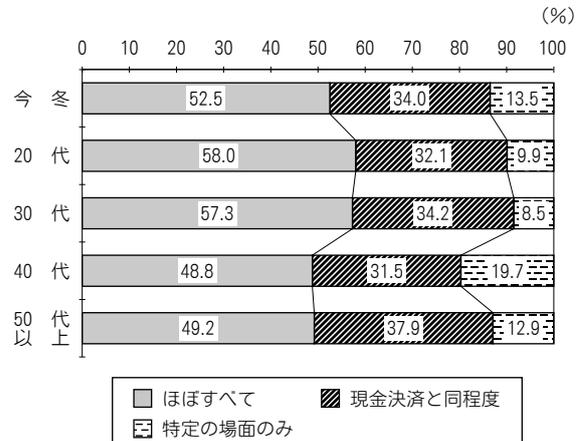
物価上昇への対策として取り組んでいること



キャッシュレス決済の利用状況



キャッシュレス決済の利用頻度



キャッシュレスな毎日を。

お買い物やお金の管理がスムーズに。

YAMANASHI TARO

GOOD MONTH/YEAR
THRU 月 年
有効期限 00/00

0000 0000 0000 0000

山梨中銀 Visa デビット

—マイデビット—

MyDebit



Let's cashless!

- 現金よりも便利、安心
- アプリで収支が見える
- お買い物のたびにスグに口座から引き落とし
- 国内・海外のVISA加盟店で使える
- お得なキャッシュバック特典付き
- 15歳以上(中学生を除く)からご利用可能！審査不要！

※初年度年会費は無料です。次年度以降、年会費1,100円(税込)が必要となりますが、一定の条件により無料となります。(2020年7月1日現在)

Webでのお申し込みはこちらから



山梨中央銀行

VISA